【特別対談企画】 第11回

「吾唯足るを知る」”こころの時代“を問う

輪島市門前町 總持寺祖院
監院 今村源宗老師

【總持寺祖院】
石川県輪島市門前町にある曹洞宗の寺院。正式には大本山總持寺祖院と言い、今から約七百年前の元亨元年(1321年)瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)禅師によって開創された禅寺。

翌元亨2年夏、禅師に帰依された後醍醐天皇は綸旨を下され、總持寺を勅願所として曹洞賜紫出世第一の道場と定められた。その後寺運益々隆盛を極め全国に末寺一万六千余を数えるに至るが明治31年4月、不幸にして災禍により七堂伽藍の大部分を焼失。これを機に布教伝道の中心を神奈川県横浜市鶴見に移転。

現在は祖院としての威厳と風格を今に伝えている名刹です。しかし、平成19年の能登半島地震で約30棟の建物や門のすべてが被害を受け、今も再建工事が急ピッチで進められ「禅文化の原点の地」の復興へ歩みを速めています。

今回の特別対談は、この總持寺祖院の監院であられる今村源宗老師にお話を伺いました。今村監院は昭和26年のお生まれで宮城県のご出身。先の能登半島地震の被害を受けた一大聖地の復興に向けて陣頭指揮を執られ大変お忙しい中、お話を聞かせていただきました。皆様方には経営の指針づくりや人づくり等の参考にしていただければと思います。

今を見直す 自分を見据える

〈畠〉
境内に入り、参詣順路の途中にありました掲示板のこんな言葉が先ず目に留まりました。『人生の”やり直し“はできないが、”見直す“ことはできる』確かこんな一文でした。昨年の大震災が一瞬頭をよぎりました。今村監院は宮城県のご出身と伺っております。ふるさとがあのような災禍に遭われ、大変ご心痛のことと改めて心よりお見舞い申し上げます。

〈今村監院〉
ご丁寧にありがとうございます。

〈畠〉
昨年の3.11東日本大震災の影響からでしょうか、今年の年賀状には「吾唯知足」という格言をしたためた賀状がいつもになく多かった気がしました。お釈迦様の遺教経の言葉と聞いていますが、ぜひこの機会に今村監院に本来の正式な意味をお尋ねしておきたいと…。

〈今村監院〉
「われただたるをしる」と読み、京都の龍安寺の茶室蔵六庵の手水鉢に刻まれている言葉として有名です。露地から茶室に入る際に目にすることができます。「人は欲張らず、今の自分を大切にしなさい」という意味で、「足る事を知る人は不平不満がなく、心豊かな生活を送ることができる」「際限ない欲望に溺れることなく、現在の状況を善しとして生きる」大切さを説いたものです。千利休はこれを茶の心得としたのです。家は漏らぬほど、食は腹八分目にして先ずは仏様に差し上げ、次いで自分も呑み、他人にも施すという和敬清寂の茶の精神です。

要は、境目を外すことで、対立的なところからモノは見えてこないし、他人と比べたりしていてはいつまでも満足が得られない。ある人が言うには、上を見ればキリがないし下を見てもキリがない。上を見ないことは大事ですが、何もないところから何かを得ようという、つまりアメリカに追いつけ追い越せというように後ろから押されるようにして日本の戦後社会は進んで来たんですね。他人と比べたり撥ね退けたり対立的なことからだけで出発したんでは自分が本来持っている豊かさを自覚できない。本当の豊かさとは、自分と他人との対立軸からは生まれてこない。利休の言葉にあるように「足る事を知る」という原点は、我慢することでもない。利己的満足とも違う。この二つはどうしてもとり違えやすいが、肝心なのは自分を見据えておかないといけない事だと思います。物質的な豊かさから精神的な豊かさが生まれるかと言うと、ちょっと疑問ですね。今の豊かさが悪いとは言わない、この今の豊かさのラインで私たちの物質と精神の基本を語らなければならないことは難しいです。

こだわりと執着

〈畠〉
私は六十歳になった時、自分の人生に「拘り」を持って生きていきたいと思ったんですが、ある宗教家の方から、宗教では拘りや執着は余り良くないことだと言われました。やはりそうでしょうか。

〈今村監院〉
宗教では拘りとか執着は「迷い」という意味でして、余り良い言葉としてとらえていませんね。何にでも執着することはいけないことなのですね。しかし、捉われることは悪いことではありません。人間は捉われのない生き方などそんなに簡単にはできませんよ。執着のように物事に「着」が付くと余計厄介になるんです。たとえば愛はいいんですが、愛着になると、”べったり“と形容されたりして(笑)。歌の文句じゃないけれど愛に報酬を求めないはずなのに自分に留めておこうと思うことで、さらにややこしくなりますね。「足るを知る」事とはかけ離れるわけです。そこに留めておきたいと様々な画策もするわけでしょう、どうしても見返りを求めることになる。施しという行為もそうです。寄付のように社会制度としては悪いことではないが人間の本来性としての在り方と混同してはいけない。施しは本来喜んで捨てることですよ。「喜捨(きしゃ)」と書きますね。喜んで捨てる気持ちがなければ意味がない。先の、「足る事を知る」に戻りますが、じゃあ、我慢することなのかと言いますと、それも違いますね。少ない利益でも黙っているのか…ではないですよ。社会通念と比較しがちですが、人間の本来性としてのモノの見方として申し上げるんです。今様にいえば、お互いに思いやりがあれば互いを慮って、お互いが「和」と言う「絆」の本質を持ち合わせれば社会はどんどん変わってくるだろうと思いますね。

人間を学ぶ

〈畠〉
今村監院はこの仏門にお入りになったきっかけは何だったんでしょうか。

〈今村監院〉
要因は一つだけではありませんが、父親を早くに亡くしていますので、小さい時から人間の生き死にと云うことに関して他の人より敏感であったということですかね。人間を学びたいと言う欲求が高校生の頃から膨らみ、何の世界が一番人間を勉強できるかな?と、将来を考え模索した際に、宗教的な世界は様々なものの見方が多様に出来る、と思い至ったわけです。いろんなモノの本質が見えるわけですから。悪くすると評論家的になっちゃいますけどね(笑)。家族、社会、地域、倫理、豊かさ、貧しさや差別等にも興味を持ちこの世界に入りました。キリスト教や他の宗教もいろいろ勉強しましたが中でも禅は自己を含めて人間を学ぶ要素が限りなく多く、この道へ入り込む一番の要因となりましたね。しかし、物事の本質はまだまだ見極められていませんが(笑)。余談ですが、自由博愛の精神を生んだ国フランスでは信仰の自由というのがありまして、逆に信仰しないことの自由という自由もあるんです。興味深いですね。

輪島市門前町 總持寺祖院 監院
今村源宗老師

Top Talk

畠経営グループ 代表
畠 善昭

2012年3月4日(日)
〈總持寺祖院〉にて

禅とは

〈畠〉
私も、禅には興味があり坐禅の経験もあるんですが、教わった通りに臨んでも中々すんなり境地に達しません。心境に雑念があるんでしょうか(笑)。

〈今村監院〉
坐禅は、ありのままの自己であることをそのまま素直に受け入れていることを確認するだけのことです。こう言うのも理論づけで、多少難しい話に聞こえるかもしれませんが。要は五感を全部解放して、ありのままになること。「~ならなければならない」とか「~であるべき」に捉われないこと。先ほどお話しした”着“が人間の本来性には払拭されていることですね。日常においては、物事は自然のままに流れるようになっているんですよ。よく「蓮の葉に露が着くようなもの」と例える人がいます。程良く付いていてスルリと離れる。粘着や執着なくコロコロと転がり、それこそスルリと自然に落ちるのがありのままの姿です。余計なことを考え過ぎないことですね。「無常」は「無我」であるという仏教の原理なのです。

自未得度先度他の心

〈畠〉
ここ二十年余りをふり返ると、産業・経済ともに沈滞して「失われた二十年」と言われています。私を含め、経営に携わる当事者として今何を求めればいいか模索している方々も多いと思われます。アドバイスがあれば一言お願い致します。

〈今村監院〉
私もよく社是を依頼されることがありまして、考えさせられますね。先ず、企業の理念は何のためにあるのかを問うのです。自社の利益は何のためにあるのか…。自利利他平等の企業観をしっかり持つことでしょうね。あのアップル社を興したスティーブ・ジョブズ氏は二十代の頃から既に禅に傾倒していたそうで、毎朝目覚めるとベッドの上で静かに座って今日一日の生き方を問い続け「今日一日、本当に充実した生き方が出来れば、百年の価値がある生き方だ」と言っています。これは道元禅師の教えそのものです。昨今の大企業トップのお粗末な発言や不可解な行動、あるいは政治家の未熟さ等とは比べ物になりません。「自(じ)未得度(みとくど) 先度他(せんどた)」自らは未だ得ていなくても先に他に得させてあげるという、利他救済の心を持つことが肝心かと思われます。自宅のガレージからスタートしたジョブズ氏は、シリコンバレーを代表する世界的な企業を興してアメリカンドリームを成し、若くしてサクセスストーリーを築きあげましたが、彼の生き方、経営哲学、企業理念にはそれぞれに禅の考え方が大きく影響していますね。日本で言えば松下幸之助氏の”松下イズム“と共通したものがあります。まさに「自未得度先度他」の精神ですよ。適正で正当な利潤の追求、それ以前に提供する価値が人にとって社会にとって幸福であるか、繁栄をもたらすものであるかを問い続けることですね。これこそ「足るを知る」本質であって、トップマネージメントの必須アイテムでしょうね。

如是観

〈畠〉
お部屋に掛かっているお軸は今村監院の書でしょうか?

〈今村監院〉
はい、「如是観」(にょぜかん)と読みます。ありのままに見る、という意味ですね。本来、目にはありのままにしかモノや事象は見えないものです。見えているにもかかわらず、人はそれぞれ取捨選択して都合のよいように様々な色を付けてこねくり回し、そのままを見なくしているんですね。如是になれない。「足るを知る」境地には達し得ない。

忠信孝悌への再認識

〈畠〉
かねがね思っていたことですが、戦後日本はアメリカに追いつけ追い越せということでひとつの経済の魔物みたいに走り続けた結果、今や金さえあれば人間さえ買えるという風潮には問題があります。

モノ貧しくとも心豊かにという教育を受けてきた世代ですから、経済優先が声高に叫ばれている昨今では人間としての一番大切なものを忘れ去っているように感じてなりません。道徳や修身の欠如にいささか失望しているのは私だけでしょうか。道徳とか修身をいつの間にか教えなくなってしまった結果、苦労しながら勉強して大切な人格能力を形成するという新たな教育の必要性を感じます。

〈今村監院〉
私に言わせれば倫理の問題ですよ。私達は理念や理論で生きている訳ではない。人格能力を身につけていないと地位や経済力だけあっても立派な人格者とは言えない。数字と紙切れに価値を付けたのは人間。人間らしいと言えばそれまでですが、動物や自然界にはない事ですよ。よく、人は動物のように自然に生きたいなどと言いますが、動物自身は自然に生きたいなどと思ってもいないはず。人間はいつも理想世界を求め、本物だとか偽物だとか作ったものに自分を当てはめたいと云う願望が強い。切り取って生きる西洋的な生き方、受け止めていく東洋的な生き方を思い出してゆくと、ずいぶん違う生き方が出来ますよ。

地域に根ざしてこれからも

〈畠〉
本日はちょうど「門前そばまつり」の最中で大変お忙しい中、有意義なお話をたくさんお聞かせ頂きありがとうございました。町をあげてのお祭りを見て、周辺地域の方々と總持寺の繋がりや結びつきの強さを改めて感じた次第です。

〈今村監院〉
過疎と言われているこの地域ですが、明治期の災禍で本山が横浜に移転したにも関わらず、今日もこうして地域に支えられていることに感謝し、末長い共存を願っています。地域住民のレベルが高いと言いましょうか、精神的風土も素晴らしい、可能性がいっぱいある土地柄です。「アエノコト」に代表されるこの地だからこそ発信できる様々な文化や事柄をこれからも発信できればと考えています。先人がこの地を愛して歴史を刻んできたように、我々も愛情と尊敬をもってこの地に根ざしていきたい。能登半島地震からの復興にも全力を尽くします。

語らずして教え、教えずして教える

〈畠〉
今村監院とは今日初めてお会いしましたが「語らずして教え、教えずして教える」というお人柄に触れて目から鱗が落ちる思いを強くしました。大変有意義なひと時でした、貴重なお時間をありがとうございました。今村監院のご健康とさらなるご活躍、ならびに今後の總持寺さまの益々のご隆盛を祈念申し上げまして本日の対談を終わらせていただきます。ありがとうございました。